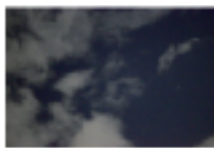


「良原誠崇著作集」 が完成しました



良原誠崇著作集

リメンバー名古屋自死遺族の会の初期
スタッフであった良原誠崇（梁誠崇）

[よしはらまさたか・やんまさたか]

さんの論文集、「自殺遺族をめぐるサポートグループの実
践的モデル構築の試み—良原誠崇著作集」が完成しました。

この本は、研究者として広く全国の自死遺族の会の調査
・考察をしてきた良原さんの、自死遺族支援に関する論文
などをあつめた著作集です。2013年度、愛知県地域自
殺対策緊急強化基金市町村等事業費による補助金により、
「故良原誠崇氏遺稿論文集発行事業」として、リメンバー
名古屋自死遺族の会が制作しました。

良原さんの論文は、自死遺族の会運営者の指南書として
も、また、貴重な研究資料としても活用され続け、古典の
良書となっていく可能性を秘めたものばかりですが、資料
が散逸しているため、図書館や書店で入手できないものを
中心に、当会が著作集としてまとめました。

4月以降の遺族会にて、希望の方にお配りします。郵送
を希望される方は個別にご相談ください（部数に限りがある
ため、今回は希望の方にのみお送りします）。

第19回春の遠足 4月20日(日)です

以下の予定で、恒例の春の遠足を行います。リ
メンバーの遺族会に参加されたことのある方であ
れば、どなたでもご参加いただけます。

■日時：4月20日（日）

午前11時50分～16時ぐらいまで

■行先：愛知牧場（日進市米野木町南山977）
バーベキューをします。

※バーベキューは13時からです。遅れての参加
でも結構です。

※雨天時も決行します。（屋根があります）

■集合場所：11:50名鉄豊田新線（地下鉄鶴舞
線乗り入れ）黒笹駅前に集合。または、現地。

■参加費：3,000円 程度を予定

（追加食材、飲み物により前後します）

■申し込み先：リメンバー名古屋事務局

次回の遺族会

第63回

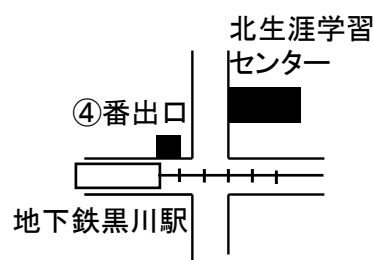
4月13日(日)13:15から

名古屋北生涯学習センター

地下鉄名城線「黒川」下車

(4番出口)よりすぐ

参加費:500円



その次は・・・

第64回 6月1日(日)

場所は北生涯学習センターです。

日程は、ホームページまたは、電
話案内でご確認いただけます。

パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>

携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>

電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408

(メール・ファックス・郵便等でお申し込み)
お名前(ニックネーム可)、ご連絡先(メール、
電話、FAXなど当日連絡できるものであれば助かり
ます)、集合場所(黒笹か現地)をお知らせくだ
さい。

Eメール: remember_nagoya@yahoo.co.jp

FAX: 020-4668-8925

郵便: 〒460-0003 名古屋市中区錦2-18-5 MBE178
「リメンバー名古屋(自死遺族の会)」

※郵便物は受取までに10日以上かかる場合があります。

■申し込み期限

4月14日(月)

※お申し込み後のキャンセルは17日(木)まで
にご連絡ください。キャンセルの場合、愛知牧場へ
のキャンセル代500円が必要となってしまいます。
当日参加できるか不安のある方は、お申し込み時
にお申し出ください。(キャンセル料のかからな
いよう当日追加という形にさせていただきます)

連載②「どんな顔するの」

羊のミケ

友人は昔、こんなことを話してくれた。

「人間には二種類あると思うんだ。一つは太陽組。大きな挫折なく生きてこれた所謂普通の人間。もう一つは月組。家庭に難があって、考えが歪んじまった俺たちみたいな奴ら。俺のところには君を含めて月組がやたら集まってくる。君の周りは太陽組が多いんだろう。羨ましいよ。太陽組の明るさでプラスの方向へと引っ張り出して欲しい」

その話はとても衝撃的だった。自分は月組。そして月組は私だけじゃない。一般的な社会生活を営みながらも歪んだ内面を持ち合わせている人間は自分以外にもたくさんいる。意外に少なくない。そのことを初めて知り、救われ、許された気がした。

そして、私の周りには気がつかないだけでちゃんと味方がいるのだと思い知った。ただ、彼は私の周りに太陽組が多いことを羨ましいと言った。そのことが未だにわからない。

私は月組を引き寄せ、過去を語れる仲間がいる彼がとても羨ましい。

先日、誕生日を迎えた。友人たちと一つの鍋をつつきながら杯を交わした。自分は愛されている。ああ、楽しい。一瞬でも心の底からそんな気持ちが湧いてきたことは文字通り心底幸せなことだ。きっとこういうことをプラスの方向へ引っ張り出されるというのだろう。

幸せ。そう感じた瞬間、すぐにその感情の裏側が見えた。

幸せはいつまでも長くは続かない。

幸福を感じる時、この考えは必ず付随してくる。そして、決まって孤独を感じる。彼らが祝っているのは明るく楽しい私であって、月組の、本当の私ではない。

今、目の前で笑っている彼らにもし過去を話したらどんな顔するのだろうか。べったり貼りつけた笑顔の皮をばりばりと剥がして全てを打ち明けたい。私は未だかつて太陽組に父の自死の話をしたことがない。

「良い25歳にしろよ」

「俺の誕生日も何か待ってるからな」

家族がいて当然の彼らに、通常あるべきものが欠落せず正しくそこにある彼らに、もし打ち明けたらどうなる。引かれるのか。離れていくのか。

眩しすぎる彼らでも上手に悲しめるのか。

一茶番は終わらせて、さっさと全部話しまえよ。楽になろうぜ。

心の奥で囁く声に蓋をするかのようにもう一枚、笑顔を貼りつけて笑った。

「ありがとな。お前等もちゃんと祝ってやるよ」

高まる想いを抑え、そう応えた。

いつか堪えきれなくなって、笑顔の皮を剥がした時、お前等はどんな顔するんだい。

目を背けず向き合ってくれるかい。

「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」次回のわかちあい

以下のように開催されます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

日時：2014年5月10日（土）

▪ 13:30～15:30（開場13:15）

場所：東桜会館 第一会議室

▪ 地下鉄新栄、高岳両駅から徒歩5分

参加費：500円

連絡先：cocoroibasyo@yahoo.co.jp

▪ 090-4447-1840

水・木 15:00～20:00

▪ 日曜日 18:00～20:00

▪ <http://cocoroibasyo.org/>

新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 80円切手13枚
7月～12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 80円切手7枚
お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。
詳しくはお問い合わせください。

法的なことでお困りの場合は

自死遺族支援弁護団

自死遺族弁護団では電話、FAX、お手紙、Eメールで相談を受け付け、その後、必要に応じて弁護団員が所属する全国の法律事務所において、直接面談による相談を行っています。

Eメール、電話、FAX、お手紙でのご相談は無料です。

電話でのご相談

●全国自死遺族法律相談ホットライン（弁護団の弁護士が直接対応致します）

電話番号 ▪ 050-3786-1980

受付時間 ▪ 毎週水曜日（祝日を除く）

▪ ▪ 12時から15時まで

●ライフパートナー法律事務所内、自死遺族支援弁護団事務局（ホットラインの受付時間以外のご相談）

電話番号 ▪ 06-6949-8277

受付時間 ▪ 月曜日から金曜日（祝日を除く）

▪ ▪ 9時から18時まで

FAXでのご相談

ライフパートナー法律事務所内、自死遺族支援弁護団事務局

FAX番号 ▪ 06-6949-8217

お手紙でのご相談

〒530-0047

大阪市北区西天満2-9-8 幸田第2ビル502号室
ライフパートナー法律事務所内、自死遺族支援
団事務局 宛

メールでのご相談

下記ホームページより送信できます

[http://www.jishiizoku-](http://www.jishiizoku-law.org/contact/index.html)

[law.org/contact/index.html](http://www.jishiizoku-law.org/contact/index.html)

日本司法支援センター「法テラス」

「法テラス」は国が設立した公的な法人です。

法テラス愛知

050-3383-5460

法テラス三河

050-3383-5465

※平日9:00-16:00

電話相談のご案内

自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

○あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター

毎日 9:00～16:30 052-951-2881

○名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターこころば

月-金 12:45～16:45 052-483-2215

面接相談のご案内(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377 毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

要予約 052-483-2095 毎月第3火曜日 午前10時-12時

各都道府県、政令指定都市（名古屋市、浜松市、静岡市等）には、精神保健福祉センターが必ず設置されています。精神的なお悩みがある場合、まずは、お住まいの地域の精神保健福祉センターにご相談されると、手助けになる場合があります。自死遺族専用の相談窓口がある場合もあ

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト（Dearest）」が開催されています。

日時：2014年5月11日（日）13:30-16:00

場所：名古屋市東区中村生涯学習センター

地下鉄東山線「本陣」駅4番出口より徒歩5分

対象：家族以外の大切な人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方

参加費：500円

連絡先：the.dearest1@gmail.com ▪ ▪

▪ ▪ <http://dearest.heya.jp>

次回「いっぷくどころ」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」では、自死遺族と宗教者による分ち合いの会「いっぷく処」を開催されます。

平日（今回は木曜日）での開催となります。

日時：2014年5月29日（木）14:00-

場所：真宗大谷派東別院対面所（東別院内）

▪ 地下鉄名城線「東別院」下車

連絡先：info@inochi.in

▪ <http://inochi.in/>

リメンバー名古屋10周年記念冊子

二期原稿募集

「自死遺族のあの日・自死遺族のその後(仮題)」

2003年12月に第一回の分かち合いを開いたリメンバー名古屋は、2013年12月で10年の節目を迎えました。そこで、これまで会にご参加いただいた皆様の思いを集めた、冊子制作を行うこととなりました。

昨年度より原稿を募集しておりました冊子の制作は、今年度の事業として引き続き行うこととなりました。

二期募集をします。みなさまの原稿をお待ちしております。

応募要件

【一般の部】…家族・友人・恋人など、大切な方を自死で亡くされた、概ね70歳以上の方

【リメンバーメンバーの部】…リメンバー名古屋の遺族会に継続的に参加したことがある方(年齢制限なし)

規定

「あの日のこと」「あの日の思い」「その後のこと」「その後の思い」「あの人への思い」をテーマに文章をお寄せください。詩、短歌など、短いものも可。字数制限はありませんが、長い場合調整をお願いする場合があります。

※寄稿くださった全ての原稿を掲載することができませんことを、あらかじめご了承ください。

※掲載にあたり、内容、表現についてご相談させていただく場合があります。

応募期限

2014年9月30日

(書き始めた方は早めにお知らせください。)

応募方法

メールでの応募可。ご連絡させていただく必要がありますので、ご住所・お名前・電話番号・メールアドレスを必ずお知らせください(情報の秘密は厳守致します)。

☆掲載時のお名前：匿名で大丈夫です。どのように掲載するか、お知らせください。

問い合わせ先・原稿送り先

下記までお問い合わせください。

メール：remember_nagoya@yahoo.co.jp

FAX：020-4668-8925

郵便：〒460-0003

名古屋市中区錦2-18-5 MBE178

リメンバー名古屋



※2011年3月発行
「自死遺族の手紙」

リメンバー

先日、仕事で近くまで来たついでに、ある神社の横にある有名な桜を見てきました。老齢なその桜は、弱ってしまったのでしょうか、枝がだいぶ切り詰められ、以前見た時よりひとまわりもふたまわりも小さくなっていました。見た瞬間思わず感嘆の声をあげたくなるほどの、かつての荘厳な姿は、もうそこにはありませんでした。

帰り道、神社の社で手を合わせました。手を合わせ、目をつむると、今自分が大切に思っている人たちのことが思い浮かびます。それは、決して生きて周りにいる人だけではなく、失われてしまった人のことでもあります。

人の生き死に、特に死んだ後のことは、どんなに努力しても人の力の及ばないことが多いように思います。だからといって神仏が、

桜のついでに立ち寄った何千人、何万人ひとりひとりのことを、気にかけて助けてくれるとは思えないでいます。それでも、力及ばぬことへの恐れ、不安は大きく、もうこれ以上大切な者を奪わないでほしい、死んだ者を穏やかに幸せにしてほしいと願い、祈るのです。

神社の傍らで、神仏に見守られてきたはずの桜でさえ、もうこの先長くは生きられないように思えます。神仏でさえ力及ばぬ、及ばさないようにしていることがあるのかもしれませんが。

合わせた手を離し、そっと目を開けると、周りに大勢の人の祈りの姿がありました。掌に残る祈りの余韻を感じながら、その場を離れ仕事へと戻っていきました。(KN)